

公益財団法人 サントリー芸術財団 音楽事業部

107-6022 東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル22F Tel: 03-3582-1355 Fax: 03-3582-1350

Nosfa0026 (2018.3.30)

第49回（2017年度）サントリー音楽賞は 読売日本交響楽団 に決定



©読売日本交響楽団

公益財団法人サントリー芸術財団（代表理事・堤 剛、鳥井信吾）は、わが国の洋楽の発展にもっとも顕著な業績をあげた個人または団体に贈る「サントリー音楽賞」の第49回（2017年度）受賞者を読売日本交響楽団に決定しました。

●選考経過

2018年1月8日（月・祝）ANAインターコンチネンタルホテル東京において第一次選考を行い、候補者を選定した。引き続き2月22日（木）ホテルニューオータニ東京において最終選考会を開催、慎重な審議の結果、第49回（2017年度）サントリー音楽賞受賞者に読売日本交響楽団が選定され、3月30日（金）の理事会において正式に決定された。

●賞金 700万円

●選考委員は下記の6氏

礒山雅（2月22日選考会欠席）・伊東信宏・長木誠司・檜崎洋子
沼野雄司・松平あかね

（敬称略・50音順）

<贈賞理由>

読売日本交響楽団は、ゲルト・アルブレヒト、スタニスラフ・スコロヴァチェフスキを継いでシルヴァン・カンブルランが常任指揮者に就任してからも演奏能力を飛躍的に向上させ、国際的な視点からのレパートリー作りを励行し、世界的に見ても第一級のオーケストラへと成長して、日本のオーケストラ界をリードする存在となった。

2017年も、シモーネ・ヤングやファビオ・ルイージ、下野竜也、鈴木秀美、飯守泰次郎などの指揮者や、ギドン・クレーメルといったヴァイオリニストとの共演で、定期演奏会や特別公演で意欲的かつ優れた演奏を聴かせた。また、カンブルランとはメシアンの《彼方の閃光》とオペラ大作《アッシジの聖フランシチェスコ》（日本初演）を演奏会形式で3回取り上げて破格の成功を取めた。

《アッシジ》は20世紀オペラの金字塔かつ巨峰として、編成も規模も巨大かつ長大な作品であるが、読売日本交響楽団は充実した事務局体勢の下、十分な練習時間を積み、万全の準備で初演に臨んで、独唱・合唱とも一体となった陶然とした時空間を作り上げた。メシアンのカトリック的宗教理念を超え、現代作品という敷居も超えて、多くの聴衆にその普遍的な真意を伝えた功績は大きい。

演奏会のみならず、同楽団はリチャード・ジョーンズ演出による二期会の《ばらの騎士》では甘く洒脱な演奏を、新国立劇場の《神々の黄昏》では飯守泰次郎指揮下に重厚で逞しい音楽を聴かせ、また日生劇場でのドヴォルザーク《ルサルカ》公演でも、山田和樹の棒で豊かな詩情を表現するなど、オペラの舞台公演においても多彩な活動で2017年の音楽界を席卷した。

以上の理由から、ここに到るまでの経緯をも含めて、第49回サントリー音楽賞を贈賞する。

<略 歴>

読売日本交響楽団

1962年、クラシック音楽の振興と普及のために読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビのグループ3社を母体に設立された。

アルブレヒトやスクロヴァチェフスキなど、世界的なアーティストが歴代の常任指揮者を務めてきた。2010年4月からフランスの名匠シルヴァン・カンブルランが第9代常任指揮者に就き、活発なコンサート活動を行っている。2015年3月には、12年ぶりとなる欧州ツアーをカンブルランの指揮で行い、楽団の実力を欧州の地に刻印した。2017年11月にはメシヤンの歌劇「アッシジの聖フランチェスコ」公演（全曲日本初演）を行い、『音楽の友』誌の「コンサート・ベストテン2017」で第1位となるなど絶賛を浴びた。

現在、名誉顧問に高円宮妃久子殿下をお迎えし、サントリーホールや東京芸術劇場などで充実した内容の演奏会を多数開催している。

このほか、社会貢献活動として、公益財団法人「正力厚生会」のがん患者助成事業に協力する「ハートフル・コンサート」や、小中学校での「フレンドシップ・コンサート」も行っている。また、エルダー楽員によるアンサンブル「サロン・コンサート」など、音楽文化のすそ野拡大にも地道な努力を続けている。

《定期演奏会》などの様子は日本テレビ「読響シンフォニックライブ」で放送されるほか、インターネットの「日テレオンデマンド」でも動画配信され、好評を博している。

ホームページ <http://yomikyo.or.jp/>

以 上

(ご参考)

サントリー音楽賞について

公益財団法人サントリー芸術財団では、1969年（昭和44年）の鳥井音楽財団設立以来、わが国における洋楽の振興を目的として、毎年、その前年度においてわが国の洋楽文化の発展にもっとも顕著な功績のあった個人または団体を顕彰し、「サントリー音楽賞」（旧名・鳥井音楽賞）を贈呈しています。賞金は700万円です。

これまでに「サントリー音楽賞」を受賞した方々は下記の通りです。

第1回	1969年度	小林 道夫（ピアノ・チェンバロ・指揮）
第2回	1970年度	堤 剛（チェロ）
第3回	1971年度	三谷 礼二（オペラ演出）
第4回	1972年度	小川 昂（理論・評論）
第5回	1973年度	ICUオルガン委員会（国際基督教大学）
第6回	1974年度	秋山 和慶（指揮）
第7回	1975年度	栗林 義信（声楽） 山根 銀二（評論）
第8回	1976年度	芥川 也寸志と新交響楽団
第9回	1977年度	常森 寿子（声楽）
第10回	1978年度	松村 禎三（作曲）
第11回	1979年度	吉原 すみれ（打楽器）
第12回	1980年度	妹尾 河童（舞台美術）
	特別賞	江戸 英雄（第1回日本国際音楽コンクール会長）
第13回	1981年度	柴田 南雄（作曲）
第14回	1982年度	外山 雄三（指揮）
	特別賞	原 清（ザ・シンフォニーホール建設グループ代表）
第15回	1983年度	鈴木 敬介（オペラ演出）
第16回	1984年度	豊田喜代美（声楽）
第17回	1985年度	日本テレマン協会（室内管弦楽団・合唱団）
第18回	1986年度	内田 光子（ピアノ） 若杉 弘（指揮）
第19回	1987年度	岩城 宏之（指揮）
第20回	1988年度	林 康子（声楽）

第21回	1989年度	有田 正広 (古楽演奏)
第22回	1990年度	武満 徹 (作曲)
第23回	1991年度	尾高 忠明 (指揮)
第24回	1992年度	練木 繁夫 (ピアノ)
第25回	1993年度	五嶋みどり (ヴァイオリン)
	特別賞	ウォルフガング・サヴァリッシュ (指揮)
第26回	1994年度	和波 孝禧 (ヴァイオリン)
第27回	1995年度	今井 信子 (ヴィオラ)
第28回	1996年度	園田 高弘 (ピアノ)
		湯浅 譲二 (作曲)
第29回	1997年度	東京交響楽団
第30回	1998年度	林 光 (作曲)
第31回	1999年度	三善 晃 (作曲)
第32回	2000年度	飯守泰次郎 (指揮)
第33回	2001年度	一柳 慧 (作曲)
第34回	2002年度	小澤 征爾 (指揮)
		木村かをり (ピアノ)
第35回	2003年度	野平 一郎 (作曲、ピアノ)
第36回	2004年度	西村 朗 (作曲)
第37回	2005年度	鈴木 秀美 (チェロ・指揮)
第38回	2006年度	東京混声合唱団
第39回	2007年度	細川 俊夫 (作曲)
第40回	2008年度	小山 由美 (声楽)
第41回	2009年度	大野 和士 (指揮)
第42回	2010年度	渡邊 順生 (チェンバロ)
第43回	2011年度	該当者なし
第44回	2012年度	藤村 実穂子 (声楽)
第45回	2013年度	鈴木雅明とバッハ・コレギウム・ジャパン
第46回	2014年度	広上淳一と京都市交響楽団
第47回	2015年度	トッパンホール
第48回	2016年度	小菅 優 (ピアノ)
特別贈賞	1979年6月	巖本真理弦楽四重奏団
〃	1997年8月	黛 敏郎 (作曲)

以 上